

学 校 名	日野市立旭が丘小学校
コーディネーター数	2人
ボランティア数	学習支援155人、環境支援87人、行事支援55人

□ 活動の概要

- ①学習支援 ツボミスクール、2年生町たんけん見守り、ソフトボール投げ教室、じゃがいもプロジェクト、漢字能力検定、家庭科実習（ミシン・調理）補助、昔あそび など
- ②環境支援 あさひ花だん、学級文庫入れ替え
- ③行事支援 サマースクール2017「楽しく学べる防災プログラム」



ソフトボール投げ教室



サマースクール＜防災教室＞



漢字能力検定

□ コーディネーターの役割

- ・学校との打ち合わせに基づき、それぞれの活動（必要人数や専門性など）に適したボランティアに協力を依頼する。
- ・活動内容を広く地域の方々に知っていただくために、定期的に「ボランティア通信」という広報紙を発行する。
- ・ボランティア活動の質の向上を目指し、他校コーディネーターと新しい活動や運営方法についての情報交換を行う。

□ 活動上の工夫や配慮等

- ・上記「ボランティア通信」で活動内容を紹介し、活動ごとに保護者や地域の方々にボランティア参加を呼びかけて、年間登録をしなくても参加しやすいようにする。
- ・活動を持続可能なものにするために、活動が児童のためだけでなく、参加したボランティアにも価値あるものとなるよう心がけている。
例：ソフトボール投げ教室では、高校生に講師役をお願いする。⇒教育学部への進学のきっかけ
昔あそびでは、終了後に講師のシニアの方々と1年生が楽しく一緒に給食をいただく。
- ・現場の先生方と頻りにコミュニケーションをとり、ボランティアとして支援できる活動を提案している。例：ツボミスクール（女の子のための下着教室）を養護教諭と協力して企画

□ 活動の成果や感想（実践を通じた児童・生徒、地域の活動者、学校等の声や反応など）

- ・地道な活動と広報紙や先生方とのコミュニケーションを重ねることで、当初はPTA活動と誤解されることが多かった学校支援活動を、保護者や先生方に理解・協力いただけるようになった。
- ・体力測定ソフトボール投げの記録が伸びたり、漢字能力検定では自分の学年レベル以上の級に挑戦する児童が増えている。
- ・本校の活動を他校コーディネーターが視察し、その結果他校でも同様の活動が実施されるようになった。例：ツボミスクール